

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」
基本方針	○失敗を恐れず、学習にも運動にもあきらめずに挑戦する児童の育成に努める。 ○地域の教育資源を最大限に生かすふるさと教育の充実を図りながら、保護者や地域と連携協働することで、地域とともにある持続可能な学校を推進する。
本年度重点目標	○ユニバーサルデザインの視点を入れた授業改善や個に応じた指導を行うことで、誰一人取り残すことのない、個別最適な学びと協働的な学びの実現に努める。とともに、深い学びの充実を図る。(ICTの有効活用を研修する。) ○外遊びや様々な交流・体験活動を充実することで、自分や友達のよさを見つけ、いじめや不登校のない学校づくりに努める。(ゆすっこ宣言の活用を行う。) ○気持ちのよい挨拶や返事など、当たり前のことが当たり前にできる態度を育てる。 ○「自分の命は自分で守る」を合言葉に、学校安全教育の充実を図るとともに、安心・安全で充実した教育環境の整備に努める。 ○遊子の自然や歴史、産業など、地域の教育資源や人材を活用した体験活動に取り組むことで、ふるさと教育の充実を図る。

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	C	C
			・具体的な対策の実施	C	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
			・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
・保護者アンケート			A		
・児童生徒アンケート			A		
(成果○と課題●) ○授業(授業展開の工夫・振り返りの時間の確保)改善を通して、少しずつではあるが学力向上につながった。タブレット端末(eライブラリーやeスタ等)の活用も積極的に行った。 ●読書に関する取組、学力調査の分析や結果を生かすことが十分にできていない。 (改善策等) ・きめ細かな学習指導ができる反面、多様性が求められる社会に適應できる学習教育を願う。(地域) ・図書の本を持ち帰らせて読書時間を増やしたり、児童が目標を決めてスモールステップで学習に取り組ませたりしたい。 ・学力調査の分析や結果を全体で確認し、課題のある教科を中心とした授業改善や宿題、補充学習等の取組に生かす。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
			・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
			・児童アンケート	B	
			・教師アンケート	B	
・児童アンケート			A		
(成果○と課題●) ○子どもたちは、登下校の挨拶がよくできている。(地域) ○生徒指導の問題が起きたときに、全体で共有しながら迅速に対処することができた。 ●ぐんぐん週間のカードの活用が十分にできなかった。 ●自己肯定感の低い児童への支援が十分とは言えない。 (改善策等) ・ソーシャルスキルトレーニングや継続した他者からの称賛により、自己肯定感を高めていきたい。 ・教師が融和的な雰囲気で見守ることで、全体の受容的な雰囲気づくりに努める。 ・ぐんぐん週間中に、子どもとよりよい家庭生活について話し合い、決まったことを守って生活するよう全体で共有し、意識して生活できるように支援する。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとられることなく取り組んだ。	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果○と課題●)</p> <p>○へき地研に向けて取り組むことで準備が着実に進んでいる。学担と児童との関係が良好で問題が少なかった。          ●勤務時間が長く、心身ともに無理をしている。改善策を全体で検討する必要がある。          ●課外体育の行い方について、業務改善を含め、再度、全体で確認する必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>①常に子どもを第一に考えた取組を重視することで、働きがいを醸成していく。          ②へき地研が終われば、かなり時間的、精神的に余裕ができると思うが、一人一人が自分の健康を大切にすることを念頭に置いて職務に当たる。(無理をしない・させない)          ③可能なことから少しずつでもいいので、業務改善を行っていく。(文書の上げ方・児童配付文書の仕分け・退勤時間の目標設定等)</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A A	
			家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
②	情報発信	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A		
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A		
<p>(成果○と課題●)</p> <p>○先生方の対応は、いつも全力で子ども目線で気を配っている姿を学校行事等を通じて感じている。教育のカリキュラムも常に作り、地域とのつながりを大事にする様子から、遊子を昔のように華やかな姿に戻してもらえるような気がする。(地域)          ○外部講師を招き、地域学校協働活動について教職員向けに研修を行ったことは大変勉強になった。          ●「遊子小おうえんたい」のちらしを配付し、地域の方の力を借りて、よりよい学校運営を行っていきたいと考えているが、十分な発信ができておらず、登録者が少ない。学校と家庭、地域がもっと連携して取り組むことでできることが増えると思う。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・地域の方にも協力してもらいながら、子どもを見守っていくチームづくりを目指す。協力できる方は、たくさんいると思うので、声を掛けてほしい。(地域)          ・積極的に学校のために協力していきたい。(地域)          ・ワークライフバランスを見直し、学級通信をできるだけ発信する。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

(地域からの自由記述より)

- ・地域の方にも協力してもらいながら、子どもを見守っていくチームづくりができればいい。協力できる方は、たくさんいると思うので、声を掛けてほしい。  
→学校運営協議会や保護者へ「遊子小おうえんたい」についての周知を継続して行っていく、協力しやすい体制づくりを行っていく。
- ・卒業式、運動会等の音響のミスが大変気になった。対策はどうしているか。  
→今年度の異動により、教員が操作に慣れていないことが一因となっているので、事前の確認等をしっかりと行っていく。
- ・子どもたちは、登下校の挨拶が良くできている。  
→1学期に重点課題として取り組んだ挨拶の改善が進んでいる。2学期以降も、地域の方からのお褒めの言葉などを児童に伝えて、よい挨拶ができるようにしていく。
- ・きめ細かな学習指導ができる反面、多様性が求められる社会に適應できる学習教育をお願いしたい。  
→児童が協働して学習に取り組んだり、多様な意見を引き出す発問等を行ったりと授業改善に努める。
- ・在校生のトロフィーの件は、タイムカプセルとして写真に残して、箱に納め、本物は処分してはどうか。  
→バスケット関係については写真を撮って公民館で保管するという話合いになったので、そのように対応する。それ以外の物についても種類ごとに分けて写真を撮り、箱等に入れて整理して保管を行う。
- ・先生方の対応は、いつも全力で子供目線で気を配っている姿を学校行事等を通じて感じている。教育のカリキュラムを常に作られ、地域とのつながりを大事にしているなど、遊子を昔のように華やかな姿に戻していただけるような気がする。子どもたちがびっくりするくらい楽しめる、そして、みんなで笑い合えるよう、小学校をお借りして自分も協力していかなくてはと励まされる。  
→地域の方のこうした声に励まされる。地域の方、保護者の方と意見を出し合いながら、ともによりよい遊子小学校を創っていけるように努力する。